

(芦北支援学校) 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標	
ア	児童生徒それぞれの力や特性を見極め、さらに伸ばすきめ細やかな指導を行う。
イ	児童生徒一人一人が将来に向けて生活の質を向上できるよう知恵を出し合って教育や支援を行う。
ウ	児童生徒同士、職員、家庭、地域が共に学び、共に育つよう連携を深める。

2 本年度の重点目標	
ア	児童生徒にとって安全・安心であり、意欲的に学べる教育環境を整備する。
イ	個別の教育支援計画及び個別の指導計画(あしえんプラン)に基づいた授業実践の充実を図る。
ウ	特別支援教育に関する専門性の向上及びセンター的機能の充実に努める。
エ	卒業後を見据えた進路指導の充実を図り、進路情報の収集と発信に努める。
オ	近隣校や地域施設、児童生徒の居住地域との「交流及び共同学習」を推進する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標の達成・重点目標の具現化を図る	新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた実践と検証	・3密を防ぎながら単元や授業内容の精選、入れ替え等を行うことで、授業の充実を図る。	・教務・研究部、総務部と連携して、授業計画の見直しや改善を適宜行う。	A	・当初予定の単元計画を縮小したり、学習内容を精選したりすることで進めることができた。 ・学部毎に3密を防ぐ取組みを徹底した授業づくりや改善を行い、リモートなどのICT活用を推進することができた。
	学校改革	分掌部再構成の検証	・5つの分掌部組織に再編したことによる効率的で円滑な業務遂行をめざす。	・新体制における業務内容等の整理と構築のため学期毎に見直し、検証する。 ・総務において業務内容を把握し、早期に継続して支援にあたる。	B	・4つの分掌部を2つにまとめたことで、運営面に戸惑いも見られたが、次年度は、反省や改善点を基に業務の効率化に繋げる。 ・各分掌部からの行事等の計画、立案については、適宜対応し実施へと繋げることができた。更に見直しや検討、先を見通した計画等を心がけることで職員全体での共通理解を図り、円滑な業務に繋げる。
		職員一人一人が働き方を構築し、学部の業務の遂行	・職員間相互に業務内容を把握し、協力し合える体制を整える。 ・水曜日を「ノー残業デー」の定時退勤とし、メリハリをつける。	・学部会等において、職員間の業務内容を確認し、役割を分担しながら進める。 ・ゆうネット、月行事、職朝において、事前に連絡し、各自が計画的に進める。 ・毎週、水曜日には職朝での周知や「ノー残業デー」であることの掲示を行うなど視覚的にも伝えるようにする。	B	・学部主事、分掌部長等を中心として、役割分担等を行いながら校務を進めることができたが、次年度はより役割を明確にしていく。 ・月行事の変更時は、ゆうネットへ随時、更新、掲載していくことで周知を図ることができた。 ・水曜日は、ほぼ18時前には職員は退勤することができた。次年度は、水曜日に会議を入れられないことを徹底するなどの改善を行う。
授業の充実	重度重複障がい及び知的障がい教育における授業の充実を図る。	授業実践の充実 PDCAサイクルの構築	・「卒業後の豊かな生活に向けた授業の充実」に向けて、学校の目指す児童生徒像と	・学校の教育目標や研究テーマを踏まえた学部テーマにそった授業を展開する。	B	・学部ごとにテーマを設定し取り組むことができた。 ・学部内での検討やグループでの授業研究会を通して、身に付けたい力を伸ばすための授業実践、授業者の悩みや学

			<p>児童生徒一人一人に「身に付けてほしい力」の相互関連を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の実施状況の評価と改善を教育課程の評価と改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内での検討や事例研究をとおして、意見交換したいことや学びたい視点を踏まえた授業実践の充実、指導支援を行う。 ・個別の指導計画や共通のツールを用いて、実態把握や授業の評価改善を行い、教育課程の改善に生かす。教育課程検討委員会で見直しや改善につなげるとともに学部間の共通理解を図る。 	<p>びたいことに沿った意見交換やそれを受けての授業改善を繰り返し行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の終わりや教育課程検討委員会に合わせて個別の指導計画や共通のツールを用いての学習評価の機会を設けた。それをもとに、次の学期や次年度の授業や教育課程の見直しも行った。実態把握については、個別の指導計画等での前担任からの引き継ぎを受けて現担任で検討したが、自立活動の関連図作成など各担任に任せている部分が多いため、学校全体で共通して実施していく必要がある。 ・学部単位で計画実施している部分が多いため、学部間の共通理解が課題である。 	
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育、進路指導を充実させる。	小・中・高の一貫したキャリア教育の推進	児童生徒一人一人のライフステージに応じたキャリア発達を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自分の個性を發揮し、他者を尊重できるよう学校生活の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の教育活動の中で、児童生徒が実態に応じた取組みで役割を担いながら、自己肯定感を高める学習活動を実施できた。次年度は観点別に丁寧な実態把握と実態に合わせた教育活動を展開しながら取り組んでいく必要がある。
		卒業後を見据えた進路指導の充実	進路学習や現場実習及び作業学習等を通して働くことの目的や意義の理解を深め、個々に応じた社会参加につながる力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談等を基に、卒業後の進路先や現場実習先を新たに開拓し進路学習、現場実習を実施する。 ・移行支援の関係機関等と連携、協力し卒業後の支援体制を構築する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な進路面談、3年生においては、卒業後を見越した進路情報収集と現場実習が実施できた。また、個別に進路状況をふまえながら、臨時の現場実習や宿泊を伴った実習も実施するなど対応することができた。 ・各圏域の福祉行政、特定相談、一般相談、就業・生活支援センター等関係機関と密に連携を図り、支援体制を構築した。
		進路情報提供と本校教育活動の発信	進路情報のデータ化し、共有環境を整備する。また進路便り等を発行し、生徒及び保護者に進路情報を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報について、収集し、職員や保護者に必要な進路便りや面談等で情報提供する。 ・職員、保護者のニーズを把握し、進路研修会を実施計画する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実習可能又は、就労の見込みがある事業所情報のデータ共有、面談等での活用ができた。「進路便り」を発行することで、就労アセスメントの視点で豊かな生活への着眼点を持ち、個々の生徒において必要な取組みを保護者、職員と共有できた。 ・進路研修会では、予め動画を録画し、職員が自由に視聴できるようにするなど職員研修の充実につなげた。
生徒(生活)指導	学校生活の充実のための活動に主体的、意欲的に取り組む児童生徒を育成する。	児童生徒会活動等の充実	児童生徒の実態や経験等に応じて役割を分担し、児童生徒会活動を本校、分教室それぞれで月1回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、各係、分教室では生徒会役員中心に3密を防ぎながら活動内容の精選、計画し実践する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の年間計画に沿った活動が十分にできない部分もあったが、可能な範囲で児童生徒が主体的に活動できるよう、それぞれの係で工夫しながら進めることができた。リモートを使うことで、児童生徒同士の交流や発

						表に繋げることができた。
人権教育の推進	学校全体で人権教育研修に取り組み人権問題の基本的知識を深める。	人権教育の工夫		<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会で校内研修計画を検討し、実施する。指導案作成時には、人権教育の視点を入れる。 ・校内研修では、テーマに沿って、小グループや学部内で協議する時間を設けるなど相互に学び合う場とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校長による法令関連の講話があり、人権同和教育に必要な内容について、改めて確認することができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本年度は学部毎に研修を実施し、職員間の協議を活発に行うことができた。協議後は、リモートを使って各学部からの報告、協議内容を共有することができた。 ・水俣病とハンセン病に関しては、県立教育センターのホームページ内にある映像資料を活用し、基礎的な内容から現状についてグループ協議を行った。 ・拉致問題に関しては、政府拉致問題対策本部制作アニメ「めぐみ」を活用するなど、コロナ禍の中でも工夫しながら、課題解決に向けた意見交換を行うことができた。
	すべての教育活動を通して「命を大切にすることを育む指導」を行う。	「命を大切にすることを育む」指導プログラムの趣旨の理解と日常的な取組の徹底	授業、全校集会及び各行事などの活動内容を「命を大切にすることを育む」指導の視点を意識する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を大切にすることを育む」指導の視点で全校集会等の実践と点検を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会時には、新型コロナウイルス感染者への差別や偏見を持たないようにしようというテーマで人権学習を実施した。学習の参考として、文部科学省制作の新型コロナウイルス感染症に関する映像を活用することで、感染者に対しての差別や偏見を持たないようにすることを学び、「命を大切にすることを育む」「思いやり」を知ることができた。
いじめの防止等	いじめを未然に防ぎ、早期発見、早期対応・解決に向け、迅速かつ組織的に対応を行い、児童生徒が安心して学校生活を送れるようにする。	「いじめは絶対に見逃さない」感覚を身に付け、教育活動全般におけるいじめ防止、啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に学び、成就感や自己肯定感を感じられる授業実践やお互いを認め合う集団づくり等を行うため、各学期に1回以上は全校児童生徒がふれあうことのできる活動を設ける。 ・アンケート調査や個人面談、日々の観察、様子等を踏まえるなど、あらゆる手段で早期発見に心がける。 ・いじめ又は、疑いがある場合は、対応マニュアルにそって迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒へのアンケート調査を各学期に1回、児童生徒及び保護者への個別面談を各学期1回実施し、いじめの早期発見につなげる。 ・各学部、校務分掌ごとにいじめ防止に向けた取組を計画し、実践 ・評価を各学期に1回行う。 ・年度初めには対応マニュアルの見直しを行い、全職員で共通理解 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとにアンケートや個別面談を行い、実態を把握できた。いじめ事案とするものはなかったが、いじめ防止対策委員会では、外部専門員より、リモートで指導助言を仰ぐことができた。中でも、携帯やICT機器の影の部分だけに着目するのではなく、活用することでの利点やプラス面を意識した指導していく。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全校児童生徒が集まるとの活動はできなかった。しかし、全校集会等を通して、お互いの授業の様子を知ったり、共通の活動を行ったりなどの機会を設けることができた。学部の中では、仲間とのかかわりを深められるような場やお互いのがんばりを認め合う場を設定することができた。 ・マニュアルについては、年度当初に全職員で共通理解を図ることができた。熊本県のいじめ防止に関する方針が改

				を図り、迅速にあたるようにする。		定されたことにより、本校の方針も見直し、検討を行い、組織体制の見直し等を進め滝ことができた。
地域支援	全校体制でのセンター的機能の充実を図る。	地域支援に係る校内支援体制の充実	分掌部会(月1回)や地域支援に関する校内会議(年5回)を実施し、共通理解と充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域センター会議(年2回)、コーディネータ会議(学期1回)を実施し、共通理解を図りながら取り組む。 ・巡回相談等は特別支援教育COを中心に企画し、外部からの依頼に対応する。 ・本校が行っている地域支援の現状を校内で紹介するため、地域支援便りを学期1回発行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの会議は他の会議と併せた形で実施したのものもあるが、全て実施できた。報告が主であったので、地域支援に関する意見交換の時間は十分とれなかった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から、専任のCOがすべての巡回相談に対応した。相談内容により他の分掌部からの情報収集や資料を提供してもらうことで対応した。 ・地域支援便りを学期1回発行できた。
地域連携 (コミュニティスクールなど)	学校運営協議会の充実を図る。		緊急災害に備えた体制作りを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接するくまもと芦北療育医療センターとの合同防災訓練を実施する。 ・災害に対する避難訓練及び職員防災研修を実施する。 ・今年度改訂した危機管理マニュアルについて感染症の視点を入れて検討し、見直しを図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点と令和2年7月豪雨被害のため実施ができなかった。次年度は、芦北療育医療センターと連携しながら進めていく。 ・本校ではシェイクアウト訓練、佐敷分教室では単独での火災避難訓練を初めて実施できた。訓練後は、各学部で気づきを出し合い、共通理解を図ることができた。 ・訓練の中で、児童生徒同士が密にならないようにするなど感染症防止の視点を意識して実践することができた。また、災害用品の備蓄品についても、感染症対策の視点を入れて検討した。
安全管理	危機管理体制に基づいた取組を推進する。	感染症予防対策の推進・日常的な取組の徹底	日常の健康観察を丁寧に行うとともに、くまもと芦北療育医療センターや保護者、学校医との連携を図り、職員や保護者に周知する。また、学校全体として感染症対策についてまとめ、日常的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に職員へ健康観察の視点を確認する。また、職員の健康状態についても各学部で健康チェックを行うなど組織として健康管理に務める。 ・消毒などの感染症対策としての学校の取組をまとめ、各学部で実践する。月に1、2回程度は、取組状況を共有し、徹底を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、日々の健康観察の視点について、あらかじめ学校医に助言をいただきながら、学校全体で確認した。学校、家庭でも協力して健康観察を行えるよう資料やポスターを作成して配布した。職員も出勤前、授業前、昼食後など日々の健康チェックを行い各学部で記録、健康状態を確認、把握することができた。 ・年度初めに、学校全体で取組むこと、学部で取り組むことを共有し実践することができた。定期的に確認はできなかったが、県からの通知やマニュアルに合わせて、学部、学校としての取組状況を確認することができた。2学期末には、再度、

					学部の取組みを見直すことで学校全体での共有を図った。	
安全・安心な学習環境を整備する。	安全で衛生的な学習環境づくり	学習場所の安全と衛生面の確認を日常的に行う。また、教室だけでなく校内の美化に取り組む。	衛生的環境を保つため、学校医及び学校薬剤師との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に使用する学習場所の清掃や下校後の消毒を行う。 ・3密を防ぎながらの支援体制、授業づくりを行う。安全な環境整備のため月1回の安全点検を行う。 ・スペースリフレッシュのため、備品や倉庫を整理し、校内美化に努める。 ・衛生面の検査等を基に必要に応じて学校医及び学校薬剤師に指導助言を受け、学校環境を整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、授業後に清掃と併せて、教材や共用部分の消毒を行うことができた。 ・3密を防げるよう各学部で教室設営や支援体制など工夫して取り組むことができた。また、月1回の安全点検を行い、改善が必要な点については、事務室と連携を図りながら、すぐに対処の方法について検討することができた。 ・加湿器やサーキュレーター等を購入し、よりよい環境づくりに繋げることができた。 ・職員作業では、廃棄対象となる備品等を確認、整理することで、スペースリフレッシュに繋げることができた。引き続き、日常的に校内美化に努めていくが、定期的な整理整頓が必要である。 ・検査結果を基に、学校の状況を確認していただいたり、喚起や消毒方法等について指導助言をいただいたりした。また、指導助言は職員で共有し、環境を整えることができた。

4 学校関係者評価

- ・様々な対策、予防に対しての知識等、充分踏まえて教育に携わっていることに感心している。
- ・コロナ禍の中、児童生徒の感染防止に努め、学校教育に邁進している教職員のご苦労・ご努力に敬意を表する。ワクチン接種が始まるとはいえ、新型コロナウイルスの脅威は続き、学校教育もその影響は避けられない。教職員の方々もご自身の心身の健康に留意され、日頃の教育活動にあたられることを祈念する。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止による学校運営も以前と異なり、事細かする必要性があり、改善が大変だと思う。
- ・働き方改革で、勤務時間内でする仕事が多くなり先生方も忙しい毎日だと思う。現在の状況をふまえた授業のカリキュラムの策定が必要だと感じる。
- ・学校内の整理整頓こそが今も昔も大切であり、人の生き方に通ずるものがある。それに加えて消毒が大切な時期を迎え一層忙しくなり、それが習慣となり普段の生活の一部となってほしい。
- ・ICTを活用したオンラインの取組みなど、創意工夫した実践はすばらしいと感じ、「いとでんわ（学校新聞）」からも伝わってきた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対策の徹底及び授業の充実、進路指導の充実など多くの成果が出ていると感じた。校長先生のリーダーシップのもと全職員で一丸となつての取組まれた成果だと思う。
- ・コロナ禍の中においても巡回相談を実施していただき御指導、御助言を賜り感謝申し上げます。
- ・「くまもと芦北療育医療センター」の感染防止対策に御理解と御協力をいただきありがとうございます。感染状況は、減少傾向にあるが引き続き御協力をお願いしたい。来年度も児童生徒及び地域教育向上のためよろしくお願いいたします。

5 総合評価

- ・保護者アンケートは、4段階（よく当てはまる、だいたい当てはまる、あまりあてはまらない、当てはまらない）の13項目での評価をお願いした。ほとんどの項目で「よく当てはまる、だいたい当てはまる」に評価をいただいているが、この結果に甘んじることなく、日頃からの保護者とのコミュニケーションを大切にし、真摯な取組みを行っていく。
- ・職員アンケートでは分掌部の再編についての項目の値が昨年度に比べ低かったが、次年度は分掌部の運営や業務分担について見直し、検討を進めていく。
- ・学校関係者評価においても、コロナ禍の中での感染症対策や学校行事、授業の取組みなど一定の評価をいただいているが、今後も引き続き児童生徒の安心・安全な学校生活づくりに努めていく。
- ・本校の教育活動について、御理解と概ね高い評価はいただいているが、コロナ禍の中での地域とのかかわりや学習活動の更なる充実に努めていく。

6 次年度への課題・改善方策

【次年度への課題】

- ・継続した新型コロナウイルス感染拡大防止の取組み
- ・ICT機器、双方向通信を推進、有効活用
- ・分掌部の運営方法、業務分担の見直し・検討
- ・正規の時間以外の従事時間の削減。
- ・令和2年7月豪雨災害からの児童生徒が安心安全に学ぶことができる施設整備の復旧

【改善策】

- ・県からの通知や「新しい生活様式」に基づいた感染症対策の周知、徹底
- ・児童生徒の実態を踏まえた端末タブレットやICT機器の有効な活用
- ・分掌部の運営や業務分担を見直し、改善することで一部の職員に業務が偏らないように分掌部長と管理職が連携を図り平準化に繋げる
- ・特に水曜日を「ノー残業デー」とし、毎週水曜日には会議等を入れないようにするなどして校務の時間を確保する
- ・令和2年7月豪雨災害による施設、備品の早期復旧